

## 基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	研究科の設置										
フリガナ設置者	ガッコウホジン アイダガク 学校法人 藍野大学										
フリガナ大学の名称	アイダガクダク 藍野大学大学院										
大学本部の位置	大阪府茨木市東太田4丁目5番4号										
大学の目的	医療・看護・健康科学に関する学術的理論と応用を専門的に教授研究し、その深奥を究め、看護学及び健康科学の学術的発展と人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的とする。										
新設学部等の目的	健康科学に関する深い探求心と洞察力を備え、高齢化社会における医療施設や地域社会の多様なニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づく高度な知識・技能・技術を身に付け、当該分野の指導的立場として活躍できる人材を養成し、その成果を地域社会や教育に還元できる人材を育成することを目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	健康科学研究科	年	人	年次人	人		年月第年次	大阪府茨木市東太田4丁目5番4号			
	健康科学専攻	2	6	—	12	修士（健康科学）	令和6年4月第1年次				
	計		6	—	12						
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	びわこリハビリテーション専門職大学 総合リハビリテーション学部 理学療法学科（△10） 作業療法学科（△10） 言語聴覚療法学科（20）（令和5年5月届出予定）										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	健康科学研究科 健康科学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設分	健康科学研究科 健康科学専攻（修士課程）			9 (9)	2 (2)	5 (5)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	3 (3)
		計			9 (9)	2 (2)	5 (5)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	— (—)
	既設分	看護学研究科 看護学専攻（修士課程）			10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)
		計			10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	— (—)
合計			19 (19)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	29 (29)	0 (0)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計			
	事務職員			25 (21)		6 (6)		31 (27)			
	技術職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図書館専門職員			4 (4)		2 (2)		6 (6)			
	その他の職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計			29 (25)		8 (8)		37 (33)			
								大学全体			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	13,915.79㎡	3,618.47㎡	9,001.57㎡	26,535.83㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	487.4㎡	0㎡	487.4㎡	藍野大学短期大 学部（必要面積 4,400㎡）と共 用				
	小 計	13,915.79㎡	4,105.87㎡	9,001.57㎡	27,023.23㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡					
合 計	13,915.79㎡	4,105.87㎡	9,001.57㎡	27,023.23㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	藍野大学短期大 学部（必要面積 4,950㎡）と共 用				
		17,609.24㎡ (17,609.24㎡)	2,975.67㎡ (2,975.67㎡)	11,956.18㎡ (11,956.18㎡)	32,541.09㎡ (32,541.09㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	12室	5室	23室	2室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		健康科学研究科		15 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特 定不能なため、大 学全体の数  図書・学術雑誌・ 視聴覚資料につ いては藍野大学短期 学部と共用		
	健康科学研究科	81,901 [6,559] (60,297 [2,766])	204 [29] (222 [44])	4 [2] (2 [1])	1,400 (1,042)	9,133 (9,047)	70 (70)			
	計	81,901 [6,559] (60,297 [2,766])	204 [29] (222 [44])	4 [2] (2 [1])	1,400 (1,042)	9,133 (9,047)	70 (70)			
図 書 館		面 積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		2418.13㎡		285	86,500					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			藍野大学短期大 学部と共用			
		583.21㎡		該当なし						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での 算出不能なた め、学部との合 計
		教員1人当り研究費等		240千円	240千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		470千円	1,126千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	0千円	500千円	500千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	850千円	750千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	藍野大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	医療保健学部 看護学科	4	115	3年次 2	464	学士（看護学）	1.04	平成16年度	大阪府茨木市東太 田4丁目5番4号	
	理学療法学科	4	100	—	400	学士（理学療法学）	1.12	平成16年度		
	作業療法学科	4	40	—	160	学士（作業療法学）	1.06	平成16年度		
臨床工学科	4	40	—	160	学士（臨床工学）	1.05	平成22年度			
看護学研究科 看護学専攻	2	6	—	12	修士（看護学）	1.33	平成27年度			
看護学科 令和2年度入学 定員増 (90人→115 人)  理学療法学科 令和2年度入学 定員増 (80人→100 人)										
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	藍野大学短期学部								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
第一看護学科	2	100	—	200	短期大学士（看護学）	1.34	昭和60年度	大阪府茨木市太田3 丁目9番25号		
第二看護学科	3	80	—	240	短期大学士（看護学）	1.21	平成19年度	大阪府富田林市青 葉丘11番1号		

既設大学等の状況	大学の名称	びわこリハビリテーション専門職大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科	4 4	80 40	— —	320 160	学士（専門職） 学士（専門職）	0.78 0.86 0.64	令和2年度 令和2年度	滋賀県東近江市北坂町967
附属施設の概要	名称：藍野大学中央研究施設 目的：再生医療及びそれに関連する医療保健の研究 所在地：大阪府茨木市東太田4丁目5番11号 設置年月：平成19年2月 規模等：土地2,517.84㎡ 建物3,110.05㎡のうち279.46㎡								

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(健康科学研究科健康科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	ヘルスプロモーション特論	1前	2			○			5		1			兼1 兼1  兼1 オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	研究倫理学特論	1前	2			○			1					
	保健医療福祉システム学特論	1・2後		2		○								
	栄養薬理学特論	1・2前		2		○								
	医療統計学特論	1・2前		2		○			1					
	認知科学特論	1・2前		2		○			1		1			
	臨床心理学特論	1・2後		2		○								
	生体計測学特論	1後		2		○			2		1			
	研究方法学特論	1・2前	2			○			1	1				
	教育方法学特論	1・2前	2			○					1			
	臨床教育学特論	1・2後		2		○			1					
小計(11科目)	—	8	14			—		8	1	3	0	0	兼3	
専門科目	認知健康科学特論Ⅰ	1前		2		○			2		1			オムニバス
	認知健康科学特論Ⅱ	1前		2		○			1	1	1			オムニバス
	認知健康科学特論演習Ⅰ	1後		2			○		2		1	1		
	認知健康科学特論演習Ⅱ	1後		2			○		1	1	1			
	小計(4科目)	—		8			—		3	1	2	1	0	0
身体健康科学領域	身体健康科学特論Ⅰ	1前		2		○			2					オムニバス
	身体健康科学特論Ⅱ	1前		2		○			3	1				オムニバス
	身体健康科学特論演習Ⅰ	1後		2			○		2		1			
	身体健康科学特論演習Ⅱ	1後		2			○		3	1	1			
小計(4科目)	—		8			—		5	1	2	0	0	0	
特別研究	健康科学特別研究	2通	8				○		8	2	4	1		
小計(1科目)	—	8	0			—		8	2	4	1	0	0	
合計(20科目)		—	16	30			—		9	2	5	1	0	兼3
学位又は称号	修士(健康科学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
本大学院に2年以上在籍し、共通科目から14単位以上、専門科目から8単位以上 (特別研究に係る領域の特論科目、及び演習科目を必ず含むこと)、特別研究8単位の計30単位以上を修得し修士論文の審査と最終試験に合格する必要がある。						1学年の学期区分				2学期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				



共通科目		<p>健康科学研究科におけるDP「1」骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。2) 国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。」に該当する科目である。医療職として活躍する日本の医療保健福祉の背景と現状の学びを通し、新時代の健康政策と公衆衛生行政を体系的に理解する。さらに、少子高齢多死社会を支える医療保健福祉制度について、国の社会保障制度や医療保険制度、社会福祉の現状の理解を深め、医療職の位置づけと役割について解説する</p> <p>(17 兼任教員：小田 泰宏)</p> <p>1・2回 保健サービスの需要・供給に関わる構成要素と相互関係と保健医療統計</p> <p>3・4回 保健行政の構造機能、中央・地方行政機構、保健技術別に構成される保健対策の仕組と成果</p> <p>5・6回 健康増進と健康日本21等一次予防の保健制度と二次予防の保健制度</p> <p>7・8回 疾病予防・感染疾患・難治疾患対策と医療施設の許認可、医療計画や医療ビジョンの推進</p> <p>9・10回 医師・看護師等医療従事者の養成と業務、社会保険の4要素、健康保険と国民健康保険</p> <p>11・12回 介護保険や高齢者医療と近年の構造改革、医療保健システムと高齢化・低成長下の社会保障</p> <p>13・14回 医療・保健と福祉の関係、年金、生活保護、社会手当等金銭給付の制度</p> <p>15回 障害者、高齢者、子ども等の福祉サービス、自立支援サービスを提供する仕組み</p> <p>(16回 評価のフィードバック)</p>	
共通科目		<p>健康科学研究科におけるDP「1」骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。」に該当する科目である。</p> <p>栄養は、健康の保持・増進に密接に関わり、その過不足やバランスの偏りは疾病を引き起こす要因となる。高齢者、疾病者および障害者においても、治療や運動の効果を最大限に発揮するためには個々の状態に合わせた栄養療法が必要不可欠である。一方で、栄養の偏りに起因する疾患には薬物治療が必要な場合もある。したがって、本科目では医療従事者として必要な栄養学と薬理学の基礎を合わせて学ぶとともに、実務において栄養学的・薬理的な問題点に対処する方法を学ぶ。</p> <p>(18 兼任教員：兼清健志)</p> <p>1 栄養学・薬理学とはどのような学問か(学ぶ必要性)</p> <p>2 栄養状態の評価・判定方法の実際</p> <p>3 三大栄養素の種類と代謝①(糖質の基礎知識)</p> <p>4 三大栄養素の種類と代謝②(脂質の基礎知識)</p> <p>5 三大栄養素の種類と代謝③(タンパク質の基礎知識)</p> <p>6 ビタミンやミネラルの種類とはたらき</p> <p>7 栄養素の消化・吸収のしくみ</p> <p>8 栄養素の体内代謝のしくみ</p> <p>9 栄養ケア・マネジメント(医療従事者の役割)</p> <p>10 ライフステージとそれに応じた栄養(サルコペニア予防)</p> <p>11 臨床栄養(健康状態に応じた栄養補給法の選択)</p> <p>12 健康づくりと食生活、スポーツと栄養</p> <p>13 栄養関連疾患と薬物治療、作用機序</p> <p>14 その他の疾患と薬物治療、作用機序</p> <p>15 ディスカッション(実務で想定される栄養学的・薬理学的問題点と可能な対応について)</p>	

共通科目		<p>健康科学研究科におけるDP「2）国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。</p> <p>健康科学分野において、統計解析は治療効果の科学的根拠やエビデンスを得るための重要な技法である。そのために、医療統計学に関連する体系的知識や統計技法の基本、統計データの解釈の方法およびその意義と重要性について理解を深めるため、本講義では、医療統計学に関連する体系的知識はもとより、簡単な基本統計、パソコンによる表計算ソフトを利用した統計ソフト、演習を通して健康科学分野で用いられる統計解析技法、自己の研究課題に必要な推測統計・多変量解析技法、結果の解釈について学ぶ。</p> <p>(3 五十嵐朗： 15回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 統計ツール (EZR) について</li> <li>2 記述統計量</li> <li>3 仮説検定</li> <li>4 疫学研究のデザイン</li> <li>5 統計テストの選び方</li> <li>6 差の検定① (studentのT検定、Mann-Whitney検定)</li> <li>7 差の検定② (対応のあるT検定、Wilcoxonの符号付順位和検定)</li> <li>8 差の検定③ (3群以上の間の比較)</li> <li>9 線形回帰と相関係数</li> <li>10 リスク比とレート比</li> <li>11 オッズ比とロジスティクス回帰</li> <li>12 感度・特異度・ROC図</li> <li>13 生存率解析 (カプランマイヤー図)</li> <li>14 ハザード比とコックス回帰</li> <li>15 標本サイズ的设计と分析計画の立案</li> </ol>	
共通科目		<p>健康科学研究科におけるDP「1）骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。」に該当する科目である。</p> <p>知覚・記憶・学習・思考・言語という人間の高次脳機能の仕組みと働きについての研究や理論を紹介する。または、認知機能、認知症、認知行動療法についての最新知見についての論文を精読するとともに、これからのリハビリテーション技法の開発につなげる試みについて学修する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(1 酒井 浩/8回)</p> <p>認知科学総論、意識のメカニズム、意識とその障害、注意のメカニズム、注意とその障害、記憶のメカニズム、記憶とその障害、知覚と思考のメカニズム</p> <p>(④ 真下いずみ/7回)</p> <p>知覚・思考の障害とそのメカニズム、コミュニケーションの認知科学、学習理論と認知行動療法、精神障害者の認知機能と社会認知機能、精神科領域の認知リハビリテーション、社会参加とメンタルヘルス疾患の予防の関連、身体活動と気分・感情との関連</p>	オムニバス方式

共通科目		<p>健康科学研究科におけるDP「1」骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。」に該当する科目である。</p> <p>精神医学領域で用いられる心理学的、行動学的評価やカウンセリング技法についての理解を深める。また、悲嘆反応、精神症状、障害像、評価と介入について理解し、臨床現場で実践できるようになるとともに医療現場のスタッフへ知識と技術を教授できるようになることを目的とする。</p> <p>(⑦ 兼任教員：足利学)</p> <p>第1回：悲観反応についての概論  第2回：心理学的評価 (1：質問紙法)  第3回：心理学的評価 (2：投影法)  第4回：カウンセリングの技法 (1：傾聴の技法)  第5回：カウンセリングの技法 (2：お互いの枠組みを知る)  第6回：カウンセリングの演習 (1：認知行動療法の基礎)  第7回：カウンセリングの演習 (2：認知行動療法の実際)  第8回：心の健康とは：ウェルビーイング・QOL・リカバリー  第9回：統合失調症の症状・障害  第10回：気分・感情障害の症状・障害  第11回：心理学的ストレスモデルストレス関連障害の症状・障害  第12回：強迫性障害／不安障害の症状・障害  第13回：神経発達障害の症状・障害  第14回：パーソナリティ障害の症状・障害  第15回：生活機能・社会機能</p>	
共通科目		<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。</p> <p>心電図、血圧、血流、呼吸代謝など、呼吸循環系の測定法を中心に、それらの測定原理と取得したデータの解析法までを理解する。呼吸循環系の測定データから日常の健康管理や活動促進への応用に対する理解を目指す。</p> <p>最新の生体計測技術を学ぶことにより、深い知識を修得し、基礎から先端的分野において、それらを自在に応用できる能力を習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(4 稲盛修二／6回)  生体計測の基礎、心電計について、脳波計について、カプノメータについて、観式血圧計について、血流計について</p> <p>(⑤ 大和洋輔／7回)  超音波画像診断装置について、脈波伝播速度について、近赤外分光法(NIRS)について、体組成について、筋機能解析運動装置について、表面筋電図について、重心動揺計について、</p> <p>(8 山科吉弘／2回)  呼気ガス分析装置とデータの読み方、呼吸機能検査とデータの読み方</p>	オムニバス方式
共通科目		<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。</p> <p>本授業では健康科学分野における先行研究分析から、研究テーマや研究目的の設定の仕方、研究フレームの構築方法、適切な研究方法、データ分析の方法について学ぶ。さらに研究者として守るべき倫理について理解し、主体的に研究を進めることができる力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 安藤卓／5回)  研究の意義と目的、健康科学分野における研究の分類、研究に必要な基礎知識、臨床疫学について、研究の流れの概説</p> <p>(① 岩村真樹／10回)  研究方法(文献検索)、研究方法(研究課題)、研究方法(研究デザイン)、研究方法(研究対象)、研究方法(倫理)、研究方法(質的研究)、研究方法(量的研究)、研究方法(データ解析)、研究方法(論文執筆)、研究方法(論文発表)</p>	オムニバス方式



共通科目	教育方法学特論	<p>本科目は、健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。3) 共通教育を通して、臨床現場でのリーダーシップや教育現場で学生教育を行う能力を習得できる。」に該当する科目である。</p> <p>本科目では、1) 教育方法学の観点から教育論や教育実践に関する知識・技能を身につけ、2) 教育方法学の知見に基づいた創造的・発展的な教育研究を推進できるようになることを目標とする。そのため、特定の教育論や教育実践を対象に、教育方法学（特に能力論、評価論、学習論）に関する学問的基礎について学ぶ。</p> <p>(13 杉山芳生 15回)</p> <p>第1回 概論一:教育方法学とは  第2回 能力論:〈新しい能力〉論  第3回 能力論:能力の3・3・1モデル、三重モデル  第4回 能力論:教育目標の分類学  第5回 評価論:「逆向き設計」論  第6回 評価論:直接・間接評価、診断・形成・総括的評価  第7回 評価論:パフォーマンス評価、ルーブリック、ポートフォリオ  第8回 学習論:経験主義と系統主義  第9回 学習論:知識の獲得に向けた学習と転移  第10回 学習論:達化、「わざ」や「型」の学習  第11回 学習論:探究的な学習  第12回 学習論:学習環境のデザイン  第13回 学習論:アクティブラーニングにおける双子の過ちと深い学習  第14回 学習論:反転授業、PBL、ジグソー法  第15回 まとめ:教育方法学の知見を統合する</p>	
共通科目	臨床教育学特論	<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。3) 共通教育を通して、臨床現場でのリーダーシップや教育現場で学生教育を行う能力を習得できる。」に該当する科目である。</p> <p>リハビリテーションの臨床現場における新人教育や養成校の学生教育における課題を挙げ、それらの解決を目的とした様々な教育理論と実践を学びながら、臨床現場での学びを促進するより良い授業デザインなどを検討する。そして臨床で起こる新しい問題を解決できる医療教育における指導者としての能力の育成も目指す科目である。</p> <p>(7 平山朋子 15回)</p> <p>第1回 医療教育における教育学  第2回 学習と学習に影響する要因  第3回 学習へのアプローチ  第4回 アクティブラーニング  第5回 ディープ・アクティブラーニング  第6回 臨床教育の場の特色  第7回 臨床教育における授業モデル  第8回 臨床教育における授業デザイン  第9回 臨床教育における学習評価  第10回 臨床教育における授業デザインの作成  第11回 臨床教育における授業デザインの発表  第12回 臨床教育における新人教育カリキュラム  第13回 臨床教育における指導者の役割と育成  第14回 リーダーシップマネジメント  第15回 教育研究</p>	

専門科目	認知健康科学領域	<p>健康科学研究科におけるDP「1）骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。」に該当する科目である。</p> <p>認知健康科学とは、認知科学と健康科学を融合させた実践的な学問である。本講義では精神認知機能に焦点を当てながら人間の認知メカニズムを探る。さらに高次脳機能障害や精神疾患・障害を持つ対象者に対する評価、問題点の把握、運動療法の実際について講義する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(1 酒井 浩／6回) 認知健康科学の説明、認知機能低下と認知症、認知機能の評価法、認知症を予防するトレーニングとは、高次脳機能障害、高次脳機能障害のリハビリテーション</p> <p>(③ 塚越千尋／4回) 注意機能評価結果の解釈と介入戦略、記憶機能評価結果の解釈と介入戦略、社会機能評価結果の解釈と介入戦略、全般的知能評価結果の解釈と介入戦略</p> <p>(3 五十嵐朗／5回) 脳活動の評価方法、睡眠時無呼吸とその評価法、睡眠と慢性疲労、高齢者の呼吸・循環機能、生体計測の最前線</p>	オムニバス方式
専門科目	認知健康科学領域	<p>健康科学研究科におけるDP「1）骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。」に該当する科目である。</p> <p>認知健康科学とは、認知科学と健康科学を融合させた実践的な学問である。本講義では生活習慣病や精神疾患の地域社会における問題、およびその対策法としての運動・身体活動の重要性を理解する上で必要な運動療法・処方、介護予防などをキーワードとし、地域における健康関連の諸問題の解決策としての運動・身体活動の総合的な視点を得ることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 安藤 卓／5回) 日本の超高齢社会の現状、地域高齢者支援における現状と課題、地域高齢者の行動特性と支援方法、骨粗鬆症と転倒予防、生活習慣病の予防、高齢者の身体活動量促進への取り組み</p> <p>(① 岩村真樹／5回) 加齢に伴い生じる症候群、フレイルの評価と介入、サルコペニアの評価と介入、高齢者に多くみられる神経変性疾患、パーキンソン病の評価と介入</p> <p>(④ 真下いずみ／5回) 精神障害者を取り巻く課題：自殺・長期在院・スティグマ等、精神障害の認知機能障害と地域生活の関連、精神障害の早期発見・早期治療と再発予防、精神障害者の就労と健康・リカバリー、精神障害を対象とした健康関連指標と評価尺度</p>	オムニバス方式

<p>専門科目</p>	<p>認知健康科学領域</p>	<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。</p> <p>認知健康科学特論Ⅰで学んだことをベースに、最新の知見と既存の方法論を実施し学際的に学ぶことで、個々の研究の方法論及び介入法を発展させる。高次脳機能障害や精神機能障害に対する文献レビュー・症例検討を行い、問題点や研究手法について討論し、評価や神経心理学検査による障害の解明と症候に応じた運動療法の実践を学ぶ。また研究に必要な手続きを理解し、それに基づいて研究計画書を作成する。</p> <p>特別研究へとつながる科目であり、希望する指導教員の演習を履修し、研究計画書を作成する。 本領域の指導予定教員は酒井 浩、五十嵐朗、塚越千尋、林拓世ある。</p> <p>認知健康科学特論演習Ⅰ</p> <p>(1 酒井浩 15回) 研究の目的, 研究課題の列举、意識・注意・記憶の評価と介入、行為遂行に関する評価と介入、知覚と認知に関する評価と介入、抑制機能に関する評価と介入、社会機能に関する評価と介入、文献検索および紹介、計測データの分析と研究倫理上の留意, 研究計画書の作成1(背景・方法)、研究計画書の作成2(結果・まとめ)、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(3 五十嵐朗 15回) 研究の目的, 研究課題の列举、非侵襲生体計測法1(心電図)、非侵襲生体計測法2(脈波)、非侵襲生体計測法3(血圧)、計測データの解釈・解析手法1(周波数領域)、計測データの解釈・解析手法2(時系列データ)、文献検索および紹介、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理, 研究計画書の作成1(背景・方法)、研究計画書の作成2(結果・まとめ)、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(③ 塚越千尋 15回) 研究の目的、研究課題の列举、高齢者の認知機能低下に関する評価と予防的介入、認知機能低下予防に対する運動の影響とその可視化について、認知機能低下予防に対する栄養の影響とその可視化について、認知機能低下予防に対する脳賦活課題の影響とその可視化について、認知機能低下予防に対する社会参加の影響とその可視化について、文献検索および紹介、計測データの分析と研究倫理上の留意、研究計画書の作成1(背景・方法)、研究計画書の作成2(結果・まとめ)、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(⑥ 林拓世 15回) 研究の目的、研究課題の列举、ヒトを対象とした研究倫理上の留意、文献検索および抄読、生体信号の理解と計測法(脳機能)、生体信号の理解と計測法(自律神経機能)、五感と生体信号評価、認知と生体信号評価、ストレスと生体信号評価、研究計画書の作成1(背景・方法)、研究計画書の作成2(結果・まとめ)、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p>	
-------------	-----------------	---	--

<p>専門科目</p>	<p>認知健康科学領域</p>	<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。 認知健康科学特論Ⅱで学んだことをベースに、地域におけるヘルスプロモーション活動や高齢期の健康寿命延伸につながるテーマをとりあげて、実際の地域での測定活動を行うなど、地域の顕在的、潜在的健康課題を明確化する分析方法、研究方法について実践的に学ぶ。また研究に必要な手続きを理解し、それに基づいて研究計画書を作成する。さらに、機器の使用方法を習得するとともに、予備的調査や予備研究を実施し、研究を開始していく。</p> <p>特別研究へとつながる科目であり、希望する指導教員の演習を履修し、研究計画書を作成する。 本領域の指導予定教員は安藤 卓、岩村真樹、真下いずみである。</p> <p>認知健康科学特論演習Ⅱ</p> <p>(2 安藤 卓 15回) 研究の目的、研究課題の列挙、測定機器1(超音波骨密度測定)、測定機器2(身体活動量計)、測定機器3(口腔機能検査)、文献検索および紹介1、文献検索および紹介2、測定項目・調査方法の検討、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(① 岩村真樹 15回) 研究に関する総説、臨床疑問の抽出、臨床疑問のPIC0への定式化、リサーチクエッションの確定、文献検索方法の紹介、基本的な統計手法の紹介(研究デザインから選択する統計)、基本的な統計手法の紹介(交絡に関して)、統計ソフトの紹介(EZR、SPSS)、研究計画書の作成1(背景)、研究計画書の作成2(方法)、研究計画書の作成3(仮説の設定)、研究計画書の作成4(倫理について)、予備的調査・予備的研究、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(④ 真下いずみ 15回) 研究の目的、研究課題の列挙、意識・注意・記憶の評価と介入、行為遂行に関する評価と介入、知覚と認知に関する評価と介入、抑制機能に関する評価と介入、社会機能に関する評価と介入、文献検索および紹介、計測データの分析と研究倫理上の留意、研究計画書の作成1(背景・方法)、研究計画書の作成2(結果・まとめ)、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p>	
<p>専門科目</p>	<p>身体健康科学領域</p>	<p>健康科学研究科におけるDP「1」骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。」に該当する科目である。 日常生活にスポーツや身体活動を取り入れることによって、豊かで健康な人生を送ることができ、生活の質を高めることが可能である。一方、過度の安静や日常生活の不活発状態が続くと、生活習慣病と総称されている病気に罹患する確率が高くなる。本講義では、健康な生活を営むために必要となるスポーツ科学の最新の知見と、廃用予防や生活習慣病の予防に必要なスポーツ科学の理論を学修することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(6 寺田 茂/7回) 高齢者の身体の特徴、筋緊張とは、姿勢と筋緊張との関係、栄養と運動、運動時の呼吸循環応答、運動指導中のリスク管理、運動指導中の応急処置</p> <p>(5 後藤昌弘/8回) ストレッチ体操の必要性、自重エクササイズ、レジスタンストレーニング指導の基礎、下肢のエクササイズ方法、体幹のエクササイズ方法、上肢のエクササイズ方法、有酸素性持久性トレーニング、整形外科的疾患のある方への運動指導</p> <p>身体健康科学特論Ⅰ</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門科目</p>	<p>身体健康科学領域</p>	<p>健康科学研究科におけるDP「1」骨・神経・筋の解剖・生理学、運動学、栄養学のみならず、スポーツ科学、認知科学・心理学等の観点から、健康の多様な構成要素を理解し、健康増進を総合的かつ多角的に捉えることができる。」に該当する科目である。 慢性腎臓病と慢性呼吸器疾患ならびに循環器疾患に対する運動の効果は、QOL向上との関連性が示唆されている。本講義では呼吸・循環・代謝障害、生活習慣病の予防だけではなく、呼吸・代謝障害、生活習慣病に併存する運動器障害を有する者の体力・身体活動を理解し、科学的根拠に基づいた適切な運動処方法の検討を行なう。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(9 栗原秀剛/4回) 泌尿器系の構造、腎臓の機能(濾過と再吸収、腎疾患の病態、慢性腎臓病(CKD)とフレイル</p> <p>(12 森田恵美子/4回) 糖尿病の病態と症状、糖尿病の評価方法、糖尿病に対する運動療法、糖尿病と糖化・腸内細菌叢との関連</p> <p>(4 稲盛修二/3回) 心臓の構造と生理的機能、心疾患の病態と評価方法、心疾患に対する運動療法</p> <p>(8 山科吉弘/4回) 呼吸器系の構造と機能、呼吸機能の評価方法、慢性呼吸不全の症状、呼吸器疾患に対する運動療法</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門科目</p>	<p>身体健康科学領域</p>	<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。 身体健康科学特論Iで学んだことをベースに、健康増進やスポーツ活動におけるスポーツ科学の専門知識を深め、健康と体力の維持/増進方法に関する先端的な理論や実践手法を展開する。また、エビデンスに基づいた健康づくりやスポーツ現場におけるマネジメント力、さらにはスポーツ科学における高度な研究能力を養成する。そして研究に必要な手続きを理解し、それに基づいて研究計画書を作成する。</p> <p>特別研究へとつながる科目であり、希望する指導教員の演習を履修し、研究計画書を作成する。 本領域の指導予定教員は後藤昌弘、寺田茂、青山宏樹である。</p> <p>(5 後藤昌弘 15回) 研究の目的、研究課題の列挙、測定機器1(表面筋電計による平均振幅、平均周波数測定)、測定機器2(超音波測定器による筋厚測定)、測定機器3(NIRSによる筋組織内酸素代謝量測定)、測定機器4(トルクマシン筋力測定)、目的別抵抗運動プロトコール、文献検索および文献抄読、文献検索および文献抄読、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(6 寺田茂 15回) 研究の目的、研究課題の列挙、測定機器1(重心動揺計測機器)、測定機器2(筋力測定機器)、測定機器3(筋電計)、測定機器4(呼吸ガス分析装置)、計測機器5(体組成計測機器)、文献検索および紹介、文献検索および紹介、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(② 青山宏樹 15回) 研究の目的、研究課題の列挙、測定機器1(重心動揺計測機器)、測定機器2(筋力測定機器)、測定機器3(筋電計)、測定機器4(三次元動作解析装置)、計測機器5(歩行補助具の選択方法)、文献検索および紹介、文献検索および紹介、研究計画書の作成研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">専門科目</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">身体健康科学領域</p>	<p style="text-align: center;">身体健康科学特論演習Ⅱ</p>	<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。</p> <p>身体健康科学特論Ⅱで学んだことをベースに、呼吸・循環・代謝疾患についての病態を組織・細胞レベルで解析するための手段を学習し、疾患の発症メカニズムを分子レベルで理解できる能力を養う。そうした研究を行う上で必要となるupdateな情報を得る手段として文献検索の方法や研究遂行のためのプロセスを修得し、自身のテーマとなる研究の計画を立案する。</p> <p>特別研究へとつながる科目であり、希望する指導教員の演習を履修し、研究計画書を作成する。</p> <p>本領域の指導予定教員は栗原秀剛、稲盛修二、森田恵美子、山科吉弘である。</p> <p>(9 栗原秀剛 15回)</p> <p>研究の目的、健康科学研究のための生命科学研究法、組織・細胞を見る技術、分子を見る技術、タンパク質の解析法、免疫組織化学の実践Ⅰ、免疫組織化学の実践Ⅱ、研究データの解釈、関連文献の検索、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(4 稲盛修二 15回)</p> <p>研究の目的、研究課題の列举、心臓の病態生理、心機能評価 1(心電図検査)、心機能評価 2-1(心臓超音波検査 1)、心機能評価 2-2(心臓超音波検査 2)、心臓リハビリテーションの基礎、文献検索および紹介、文献検索および紹介、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(12 森田恵美子 15回)</p> <p>研究背景の調査、文献抄読1(腸内細菌叢と身体組成との関連)、文献抄読2(腸内細菌叢と生活・食事習慣との関連)、文献抄読3(腸内細菌叢と運動習慣との関連)、文献抄読4(腸内細菌叢と疾患との関連)、測定機器1(体組成、糖化度、骨密度)、測定機器2(呼気ガス分析装置)、調査方法の検討(身体活動量調査票、食物摂取調査票、便通調査票)、研究計画の検討、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(8 山科吉弘 15回)</p> <p>研究の目的、研究課題の列举、測定機器1(呼気ガス分析装置)、測定機器2(呼吸機能検査)、測定機器3(呼吸筋力計)、測定機器4(非侵襲インピーダンス心拍出量計)、運動負荷試験の実施・解釈、文献検索および紹介、文献検索および紹介、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p> <p>(5 大和洋輔 15回)</p> <p>研究の目的、研究課題の列举、測定機器1(血圧・脈波伝播速度)、測定機器2(超音波画像診断装置)、測定機器3(近赤外分光法[NIRS])、測定機器4(体組成計)、測定機器5(筋機能解析運動装置)、文献検索および紹介、文献検索および紹介、研究計画書の作成、研究計画プレゼンテーション、予備的調査・予備的研究1、予備的調査・予備的研究2、研究計画の修正ならびにプレゼンテーション、研究計画書の完成</p>	
---	---	--	---	--

<p>専門科目</p>	<p>健康科学特別研究</p>	<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。</p> <p>健康科学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。</p> <p>自らの研究テーマに焦点を絞り、各自の設定した問いに対して最終的な結論を導き出す。また、修士論文の提出、発表会を通して修了研究を終結させる。従ってこの授業は2年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。</p> <p>(指導教員と指導内容) 認知健康科学領域：</p> <p>(1 酒井 浩) 脳・認知科学における脳画像および認知心理学的初見の解読ならびにその改善をテーマとして、関連する研究論文の抄読会を通じて知識を深めていく。そして、脳・認知科学および認知心理学的な側面から認知健康科学的な健康増進戦略とその効果を実施し、修士論文を作成する。</p> <p>(3 五十嵐朗) 生体情報の非侵襲計測法および時系列データの解析、その脳・認知科学における応用をテーマとして、関連する研究論文の抄読会を通じて知識を深めていく。そしてこれらに関するテーマを決めて、計測データの収集および解析を行い、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(2 安藤 卓) 介護予防・転倒予防、健康増進をテーマに、関連する研究論文の抄読会を通じて知識を深めていく。そして日本における介護予防事業の現状と課題を把握し、運動療法だけでなく、健康行動理論を用いた行動変容アプローチについても理解を深めていく。これらに関連するテーマを決めて、研究を実施し、修士論文の作成を指導する。</p> <p>(① 岩村真樹) フレイル、サルコペニアなどの加齢に伴い生じる症候について理解し、多角的に評価・分析する能力を高める。また、関連領域に関する研究論文の批判的吟味を实践し、健康増進に必要な課題を見出し、修士論文を作成する。</p> <p>(④ 真下いずみ) メンタルヘルス領域の研究論文の抄読会を通して知識を深める。健常者および精神障害、発達障害、高齢期障害、ひきこもり状態にある人などの精神・心理面の健康増進戦略の観察研究および認知心理的リハビリテーションの効果検証を行い、修士論文作成を指導する。</p> <p>(③ 塚越千尋) 脳・認知科学における脳画像および認知心理学的初見の解読ならびにその改善をテーマとして、関連する研究論文の抄読会を通じて知識を深めていく。そして、地域在住の健常高齢者の認知心理学および日常生活機能の側面からデータを収集および解析を行い、またその認知的側面の予防に対する介入戦略を考え、修士論文を作成する。</p> <p>(⑥ 林拓世) 脳機能及び自律神経機能を用いた情動、認知、ストレスの客観評価をテーマとして、関連する研究論文の抄読会を通じて知識を深めていく。そして、関連するテーマに基づいて社会的な課題を解決するための課題探求と計測及び評価を行い、修士論文の作成を指導する。</p>	
-------------	-----------------	--	--

<p>専門科目</p>		<p>健康科学研究科におけるDP「2」国および地域の健康寿命延伸事業の現状を理解し、健康増進の視点から課題を見出したうえで研究可能な問題を設定し、仮説を立て、結果の分析を行い、研究論文としてまとめることができる。さらにそこから、実践に活かすための問題解決方法を提案することができる。」に該当する科目である。</p> <p>健康科学の特定分野に焦点を当て研究の実践、指導を行い、各テーマに基づいた論文指導を行う。自らの研究テーマに焦点を絞り、各自の設定した問いに対して最終的な結論を導き出す。また、修士論文の提出、発表会を通して修士研究を終結させる。従ってこの授業は2年次に配当し、かつ必修科目として位置付ける。</p> <p>(指導教員と指導内容) 身体健康科学領域： (9 栗原秀剛) 生体の機能に重要な働きをする分子や病気の原因となる分子について学習を進めるとともに、慢性腎臓病とフレイルの関係について関連する論文の抄読会を通じて理解できるようにする。そしてこれらに関するテーマを決めて、基礎的な研究を実施し修士論文作成を指導する。</p> <p>(4 稲盛修二) 身体を健康に維持するための重要臓器の一つである心臓に着目し、生理的機能を理解するとともに、疾患の機序および増悪因子について関連する研究論文の抄読会を通じて理解できるようにする。さらに心機能低下時の各臓器に対する様々な影響を研究し、修士論文作成を指導する。</p> <p>(5 後藤昌弘) 筋力増強・筋肥大ならびに筋緊張をテーマとする研究論文の抄読会を通じて、その機能的・形態的变化に関する理解を深める。そして、これらに関連するテーマを基に基礎的な研究を実施し、修士論文作成を指導する。</p> <p>(6 寺田 茂) 筋緊張の概念と筋緊張を変化させる要因をテーマに関連する研究論文の抄読会を通じて理解できるようにする。そして筋緊張が転倒予防に重要な姿勢制御に果たす役割や関節スティフネスに対する影響について研究を行い、修士論文作成を指導する。</p> <p>(12 森田恵美子) 健康増進並びに疾病予防に関与する腸内細菌叢に着目し、身体組成、生活・運動習慣、がん等の疾患との関連性について、関連する研究論文の抄読会を通じて理解できるようにする。そして、特に腸内細菌叢と運動・身体活動量・心肺機能をキーワードに、腸内細菌叢の改善に向けた運動療法の効果について研究を実施し、修士論文作成を指導する。</p> <p>(8 山科吉弘) 健常者ならびに呼吸器疾患の呼吸機能の維持・改善に対する運動療法をテーマに、関連する研究論文の抄読会を通じて知識を深める。そして健康増進分野における呼吸機能・呼吸筋力の維持・改善方法や呼吸器疾患における運動療法の効果について研究し、修士論文作成を指導する。</p> <p>(② 青山宏樹) 主に下肢の筋力に着目し、歩行補助具の選択方法や有効性の検討をテーマに、関連する研究論文の抄読会を通じて理解できるようにする。そして歩行補助具がどのようなメカニズムで転倒予防につながるかなどの研究を行い、修士論文作成を指導する。</p> <p>(⑤ 大和洋輔) 主に加齢に伴う動脈機能や骨格筋機能の低下に対する運動療法をテーマに、関連する研究論文の抄読会(スライドを用いたプレゼンテーション)を通じて知識を深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上を図る。そして、健康増進分野における動脈機能・骨格筋機能の維持・改善に向けた運動療法の効果について検証し、修士論文作成を指導する。</p>	<p>健康科学特別研究</p>
-------------	--	--	-----------------

- (注) 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。  
2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。  
3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。



## 学校法人藍野大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
<b>藍野大学</b>				<b>藍野大学</b>					
<b>大学院</b>				<b>大学院</b>					
看護学研究科				看護学研究科					
看護学専攻				6			12		
計				6			12		
医療保健学部				医療保健学部					
				3年次					
看護学科				115	2		464		
理学療法学科				100			400		
作業療法学科				40			160		
臨床工学科				40			160		
計				295	2		1184		
<b>藍野大学短期大学部</b>				<b>藍野大学短期大学部</b>					
第一看護学科(2年制)				100			200		
第二看護学科(3年制)				80			240		
専攻科 地域看護学専攻				40			40		
計				220			480		
<b>びわこリハビリテーション専門職大学</b>				<b>びわこリハビリテーション専門職大学</b>					
<b>リハビリテーション学部</b>				<b>総合リハビリテーション学部</b>					名称変更
理学療法学科				80			320	定員変更(△10)	
作業療法学科				40			160	定員変更(△10)	
計				120			480	学科の設置(届出)	
				計					
				120			480		